

～ベルトコンベヤ設備をお持ちの皆様にお役に立つ情報をお届けします～

YOSHINO ワンポイント情報！

【軸受の給脂】

ある日、コンベヤの軸受が異常とのことで調査に向かいました。問題の軸受を確認すると、既に破損がわかる状態です。

状態を確認する為に軸受カバーを外したところ、カバーを外すと同時に軸受の玉がコロコロと転がり出てきました。驚いたことに軸受には全く給脂されておらず、それが原因で軸受が破損した様子です。

現場の方に聞くと、軸受への給脂は一箇所のレバーを操作すれば配管が繋がった複数箇所の軸受に同時に給脂される集中方式とのこと。

ところが、何らかの理由でレバーを操作してもその軸受には給脂がされず、作業員の方も「レバーを操作した＝給脂した」との思い込みから、個別に給脂状況の確認をされていませんでした。

よく使われる軸受ユニットの場合、グリースの補給量が各メーカーのカタログに記載されています。同時に給脂の確認として「軸受外輪内径とスリング外径の間（右図の赤破線部）より、少量のグリースが全周に排出されるまで補給すればよい」とあり、補給量の定量的な管理と共に実際の補給状況の確認を推奨しています。

省力化・効率化の為に様々な工夫がされていますが、それらの装置の作動状態の点検も必要です。

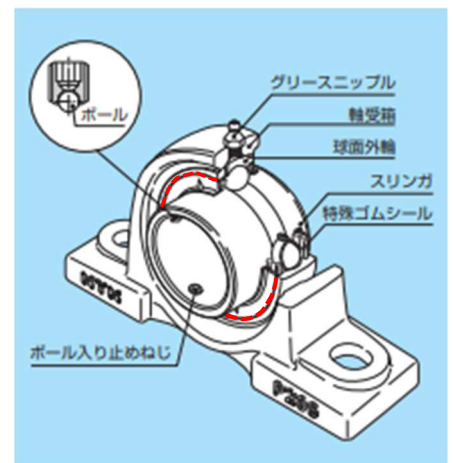
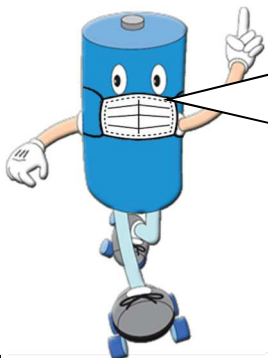


図 1.6 給油式ベアリングユニット

NTN：転がり軸受 総合カタログより



軸受への給脂は、軸受を運転しながら、全体にグリースが行き渡るように行いましょう。

日に日に暖かくなります。

今年は春の空気を胸いっぱい吸って、体にも潤滑剤を。